

ソードアートオンライン・キリトと9人のプレイヤーVS DIO！？

シノビチョコビ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

見ている人が笑顔に慣れたらそれで嬉しいです。

色々はちやめちやなソードアートオンラインが繰り広げます。

目次

第1話／色々と話をつついで入れてみたからなんとかなるだろう をよろしくお願いします	1
第2話キリト対オリ主／ヒロインの恋心は肉じゃがになる！第3話 最初の刺客パラドクスは心が躍る!?	7
episode 2. 5疾走／3. 5変更／謝罪	16

第1話／色々と話をぶっつけで入れてみたからなん
とかなるだろうをよろしくお願いします

「2022年に起きたVRの事件から約3年が経ち、多くの犠牲を出
しながら、1つの世界が救われた…」

だが救出した筈のプレイヤーの大多数が意識が戻っておらず、この
俺キリトは…山デ…失礼、ヒース・クリフ（ラスボス）を攻略したが
…

その中に愛する人の意識が戻らず、回復するのを待っていた。

それがまた新たな戦いになるとは知らず…意識が戻らない元凶
が宇宙からの侵略者とも知らずに…」

「ってちよっと監督！…どうなっているんだよ!! 大体なんだよ最後のセ

リフは!?宇宙からの侵略者だっ!?ふざけてるのか!?原作とは違うんですけど!!…えっもう本編始まっている?…ちよ待てよ。どうするんだよ宇宙人の奴は!?…ほうほうなるほどそうすると映画ぽい雰囲気が始まると映画みたいになる…ふざけてんのか!勇〇ヨ〇ヒ〇みたいしてるんだよ!!…っでどこにゆく監督まだ文句があるぞ!

「この本によれば、2022年、仮面ライダーシンノビが活躍した未来から少し進んで本作の主役のキリトとオリ主が奮闘するマカ不思議アドベンチャーとなっております。…さて、今作は監督且つ脚本うつ主が見た作品のネタを出来る限り入れておりますのでご注意ください
い…例として

「お前を最後に殺すと約束したな」

「アアそうだ大佐助けてk」

「あれはウソだ」

「ウアアアアアアあああああああああ」

コレとか…

「止まるんじやねーぞ」

「バレなきや犯罪じやないんですよ」

「楽しいビンゴ!!」

「聞こえるかNo. 6」

「絶版だ」

「よっ」

「卑怯者らつきようもあるか!」

「ヤバイバー」

「ピイギヤー」

他にもその他のネタも入れている模様です。話は外れましたが、この本によれば…キリトはD I Oと闘いオリ主の壮大なる進化を遂げ、リュウソウカリバーみたいな剣を握り……おつと、つい先まで読みすぎました忘れてください。

それではまたお会いしましょう」

「つてきつきの白服の人誰!?もういいや本編始めて」

「……………明日菜」

彼の手のひらは、オレンジ色をした髪の毛の（？）少女に触れていた。彼の目はどこか遠い目をしていた…だが、涙の滴は垂れ落ちてはおらず、堪えていた。

少女から離れて、病室を後にし、とあるゲームカセットを手に「絶対に助けてみせる…だから待ってる明日菜」

彼は病院の廊下を走り出し出て行った…

「ちよつとあなた廊下は走らない!!」

そう言われて走るのをやめた

「…すみません」

数時間前にネットサイトで事件が発生した！

「…ALLOのプレイヤーども、貴様らの世界（ゲーム内）は支配する。我が名はこの『DIO』ダア!!! 貴様らみたいなプレイヤーとはほんの一夜にして超えたのよ! それに本来の旧支配者（実正王様野郎）はこの世から消し去った! そしてまだSAOでログアウトしてないモドどもの、我が手下にする。選ばれた者だけが生き残る。そしてここにいる女は1ヶ月後に処刑する。貴様らの挑戦を待っているぞ!! 死ぬ気がかかって来い!!!」

そして今に至る。

2025年、闇の大魔王DIOが自身の分身として開発したオベロン（すごう）を『暗つ…殺つ??』をして生みの親を殺害した! その頃トマス・シンドラーは、

「…ハッピーバースデー…トウミー」

AIが独自の意識を持ち始め、このままではVRの世界だけでなく世界が混乱する大惨事が予想される…そしてここ日本で!

DIO討伐に挑む黒騎士ブルブラツって違うみたいでした。黒の

剣士キリトが立ち向かう。

そして現れる9人の勇者は一体なんだっただろう？

そんなこんなで、シリアスやコメディーその他の要素も入れていく
本作を：

「貴方達…R O O O I i Oに全てを捧げる覚悟はあるの？」

ちよつとお嬢ちゃん…作品違うからアツチに言ってね。

来お取り直して、漫画で取り敢えず見て作る駄作で筋肉馬鹿並みの
ソードアートオンライン!?をご期待下さい。

「えっもしかして第一話ってコレで終わり!？」

続く!?

第2話キリト対オリ主／ヒロインの恋心は肉じやがになる！第3話最初の刺客パラドクスは心が躍る!!

「やあみんな、俺はエギル。さて今回は豪華二本立てでお送りするぞ。さて、

バーチャルゲームソードアートオンラインが引き起こしたSAO事件の惨劇から3年が経ち、その元凶を倒したキリトは、4000人の犠牲を出し、残ったプレイヤーを救出したのだ。だが、6000人の内3000人は意識が戻ってこなかった。

その真の黒幕DIOを討伐すべく、キリトは立ち向かう…そこで出会う二人の妖精!?!果たして次なる世界はなんなのか?」

「ここが…ALOの世界…」

さつきまで命だった者があたり一面に転がる訳ではなく、緑が生茂り風が強く吹いて、昼寝日和な雰囲気だった。

そして5分ぐらい昼寝したキリトはヨダレを垂らし、本来の目的を忘れていた。

牛丼卵付き100杯食べる夢を見ていた。

「あつ…ヤベ…、なんで寝てたんだろ?」

知るかボケ!

「こんなことしてる場合じゃない!」

さっさと働け!

「オйнаレーション!さつきから文句ゆうなよ!」

走行しているうちに何者かが勢いよくコツチに向かって来た。

……

「ケイト君急いで追いつかれるよ!」

「ちよつとリーファ待つて!」

「逃すな!ひっ捕らえよ!」

「なんだあれ!?!まさか…事件!?!」

「どうとう追い詰めたぞ、さあおとなしく金を寄越せ!」

「そんなの無理に決まっているでしょ!!」

「お前たちの物は俺の物!俺の物も俺の物だああああ!」

「なんて自分がつてな…」

「うるせー！早く金を寄越せ！差もないと命を奪うぜ！」

ヤバイコレは理不尽なカツアゲであります。誰か救いのヒーロー、
我らの主人公は…

「天が呼ぶ…地が呼ぶ妖精が呼ぶ…悪を倒せと俺を呼ぶ！
さああああ掛かって来い悪人ども」

「誰だ貴様!？」

「正義の戦士ストロングガー参上！」

「名前誤魔化したぞ」

「さああああ向こうで勝負だああああ！」

謎のヒーローは悪人どもを引き連れてそのままどっかに行つた。
その後駆けつけたキリトは

「君たち大丈夫か!？」

「ええ、なんとか」

「俺も同じく」

「さっきまで何があつたんだ!？」

「それが、カツアゲの連中がそれd y「何!?カツアゲ!?お前がそこに
いる金髪の子を!？」

チツ違うつて!カツアゲしたのは」

「問答無動…いぎーデュエルスタンバイ！」

急遽始まったキリトとオリ主ツモといケイトの対決！

タイトル詐欺を回避した。

5分もしないで

「ハアあああああ！」

「なんだこの人デツカい剣を振り回している割に動きに隙愚か、無駄
がない！」

「このままだと始末される」

「ハアああああリユウシンの剣を喰らえー」

キリトの大剣の一撃がケイトのHPをジワジワと削ってゆく。

それに負けじとケイトも…

「こうなったらやけくそだ！ラウザーブレード！」

アイテムストレージから青色の剣を召喚し、ケイトの右手に沿わせる。…アレ、この剣、如何にもカードホルダーが展開しそうな武器だが…来お取り直してfinal round 気合を入れていけガンバ ra

「せい！ハアあ！マソツプ！」

「やっぱり強い…持久戦になるとキツイ…早く誤解を解かないと」

「コレで終わる」ちよつと2人ともストツプ…！

「えっ…」

2人の間に割って入って来たリーファが2人の戦いを止めた。

「あのケイト君はカツアゲではありません！カツアゲした人は今ストローングガーさんと一緒に採石場にいます！」

「リーファ!?!なんで採石場!?!」

「だって、なんとなく」

「詰まり君はカツアゲではないんだなあ？」

「さつきから言っているじゃないですか！」

「すまなかったな…俺はキリト。2人はリーファとケイトでいいんだよな」

「うん。よろしくねキリト君」

「よろしくお願ひしますキリトさん」

ケイトとリーファが仲間に加わった！

あれから10分が経ち、ログアウトしたケイト、本名は鹿角蓮。スタンド名って違うそうじゃない！音楽妖精族プーカ。リアルではピアノを弾いている。またALO内でも路地で演奏伴奏を始めている。

そこで弾かれる曲は悲しみや癒し、勇気が湧いてくる事がある。現在1人暮らし、小さなアパートで暮らしている。出身地は北海道！水曜日の深夜番組が始まったテレビ局の近くで生まれた。現在2人の姉と親の元を離れて、県外の学校に来ていた。

「はあ…キリトさんかく頼もしいけど、ネタに走りやすいなあ…」

只今の時間17時です

「今日は鉄火巻きにしようか」

テレテレテレーンテレテツレテン！

「むむ!?お客さんかな!」

玄関に着くと1人の黒髪おかつぱ(?)の少女が土鍋を持って来た！

「あつ蓮君…あの…コレよかつたら食べて見てくれないかなあ〜なんて」

「ええつナニコレ!」

「肉じゃがを作りすぎたんだけど…ちよつと食べてほしいかな〜」

「えっ別に良いけど。ありがとね直葉」

「うんこちらこそ!」

直葉は回れ右をして帰って言った。その時の顔がわずかに沸騰したヤカンだった！

それから直葉は…

(やっぱり迷惑かなあ…コレじゃあまるで筋肉モリモリマッチョマンの変態みたいになってしまふよ…蓮君が私のことどう思っているかわからないのに、なんだか蓮君のことになると体がズギズギして頭の中が蓮君でいっぱいだよ〜)

「オイスグ、なんなんだよ!?この肉じゃがの量!?半端ないって!!食べねーよこの量!!」

後半へ続く

前回までの出来事！肉じゃがとカツアゲと手抜きなバトル！？

みんなは元ネタわかったかなあ！？

俺の事を好きになれない人間は邪魔なんだよ！

単行本発売おめでとうございます！（スタッフ一同）

嬉しいなあー

「さてと…俺も遊ぶとするか」

謎の男は姿を消した…コイツこそがD I Oが差し向けて来た最初の刺客者だ！

スベック不明

ALLOの広場的なところで、

「へえ〜ここが市場になっているんだなあ」

「はい。ここでアイテム調達や武器防具、ファッションやグルメも人気、それが美味しいですよ」

「そつか…で、なんてゆう場所なんだ？ここ？」

「ムツシユ・ラー村です」

「ムツシユムラ村!」

……………

「オイお前…白ける事を言うなよ〜」

キリトとケイトの後ろに現れた男…

「お前は誰だ!?!」

「俺はパラドクス…略してパラド。よろしくなキリト♪」

「何…何故俺を知っている？まさか…」

「そう、そのまさか…俺はD I Oに雇われた刺客者だ!」

「D I Oってこの前ネット生ニュースに犯行声明を挙げたあの…」

「なんの目的で来た!」

「まあそう熱くなるなよ〜ますますゲームが楽しくなるじゃん♪心が踊るぜ」

「アスナはどこにいる!?!」

「あの女は1ヶ月に処刑する。この世界の王を倒して、後に女王を始末するらしいぜ〜」

「テメー!アスナの居場所を教えろ!」

「良いぜ!俺を攻略してからだ!」

突如始まったキリトVSパラドクスの一級地の対決。あたり一面に騒ぎが起こる。

「ヤバ、ここはダメです！テレポートリング発動！場所は広い所！」

ケイトはステージセレクトをしムツシユ・ラー村から広い草原地帯にテレポートした。そしてデュエルが開始した！

「遊ぼうぜキリト♪」

「貴様ー！」

キリトは大剣を手にし、パラドは小型の青色の縁に赤と金色の斧を使ってパリをした。

「セイヤー！」

「グエー！」

ダメージ量はかなりのダメージを食らった。

「オイオイそんなもんじゃないだろキリト…俺とのバトルをもっと楽しめよ」

パラドのアックスがキリトに追撃をし、キリトを吹っ飛ばす。

「ウアアアアアアア」

「キリトさん！」

キリトのHPはイエローゲージはみるみる内にレッドゲージになった。

キリトは立ち上がろうとしたが、立ったられるのもやっとのことだった。

迫りくるパラドは…

「まずい、キリトさんが危ない！」

ケイトは駆けつけ用とするが、

「来るなケイト！コレは俺の勝負だ！」

「でも…」

キリトの前に近づいたパラドは留めの一撃を降す時、

「今日は白けるぜ、また遊ぼうぜ！キリト」

攻撃を止め、両者引き分けとなった。

「………待てー！」

「ヒントを教えるぜ！アスナは世界の木にいる。それさえわかれば良い。また遊ぼうぜ。今度は全力で戦って来い。」

パラドはテレポートし、キリトとケイトは残されていた…

See You Next Game

episode 2. 5 疾走 / 3. 5 変更 / 謝罪

「皆さーん！ん！どうも監督脚本作者のシノビチョコビでーす！もう遅いけで新年おめでとうー！」

キリト・オリ主ケイト 「なぜ更新をこんなにも空けているんだ」

「それはですね…書きたかったものありますが、ちよつとスケールやりすぎた」

「理由は」

「リアルで忙しかったんですハイ」

「オフの日は」

「投稿サボっていました」

「どうするこれから」

「タイトル変更します。9人はなしにします」

「パラドは」

「ちよいちよい出します」

八木に電流走る

「2人ともそんな物騒な物を閉まってさ、ね？」

タイトル変更してこれからは空いている時にはなんとか投稿します
ので待ってた方々申し訳ない

次回はいつになるやら

また会いましょう…ちなみにたった今作者は〇されました。はい
主人公達に

第4話の内容!?

遂に動き出したD I Oの用意したモンスター軍団!

D I Oの力で違法改造され、並大抵の技では攻略不可能!!

なんとか先に進むキリト…

しかしかつて英雄だった剣士でも敵わない

ケイトと一緒に挑むも激しく衝突する…

ケイトが好きすぎるリーファは変態妄想を考えた!?

尺稼ぎを考えるスタツフ

ヒロインを救うキリト

どうしていいかわからないケイト

ケイトに変態行動をしたいリーファ

そろそろ出番が欲しいD I O

そうこう考えるなか最後に現る展開とオチと方向性は

果たしてこの作品は完結できるのか

戦闘シーンは最初から最後まで手抜きで例えるなら某ボールから
出で来るモンスターゲームの4択の中から技を選ぶ奴と同じ仕様に
する予定です

アスナは激しく暇を持てあわしているのである

タイトル名変わっても検索ヒットした時に変わってない時は気に背づにご愛読ください

まだ尺があるからあれを使います

「名刺を見つめる名シーン!!」

「これも乾巧のしわざなんだ」

「こころが躍るな」

「大人じゃあないもん小夜5歳だもん」

「俺はこのシーンが一番カッコいいと思ってる!」

「めでたしめでたし…じゃあねーんだよ!借りパク野郎!ベリアルメダル返せ!」

「お待たせしました闇の力お借りします」

「ウルトラマンタイタス300億の男になる」

「あんたは黙つとれ」

いい感じに尺が稼げたので切り上げます

いつ投稿になるかわかりませんが物語の結末を決めていきますので少しだけオラの物語見てくれよな!

結果見なくても見ても結構です

ソードアートオンライン・キリトVS D I O !?

第4話

可憐に舞う2人の主人公!

D I Oのモンスター達が来る!?

戦えヒーロー?

次回も一緒にログインしようぜ!